

ここでは役場で行っている環境マネジメントシステムの内容や取り組みについて紹介します。

今回は、6月29日に行われた、平成21年度独自目標の監査結果について報告します。

土幌町長
小林 康雄 殿

独自目標監査報告書

平成22年6月29日
主任監査員 貝守 良光
副主任監査員 寺田 和也
国府田 諭

1. 監査日時

平成22年6月29日（火）13:30～15:00

2. 監査対象

土幌町

3. LAS-E監査内容

独自目標(平成21年度実績)監査

- ①エコアクション（環境活動）部門 第1ステージ（A110）
- ②エコマネジメント（環境経営）部門 第1ステージ（B110）
- ③エコガバナンス（環境自治）部門 第1ステージ（C107）

4. 監査結果

LAS-E項目評価 ①A110：概ね良好 ②B110：良好 ③C107：良好

独自目標			LAS-E規格項目別評価	
番号	内容	達成状況	部門（項目番号）	評価
D101	温室効果ガスH20比較 1%減	未達成	エコアクション部門(A110)	概ね良好
D102	電気使用量H20比較 1%減	未達成		
D102	ノーマイデー月1回 実施率50%	達成		
D104	廃棄物排出量H20比較 1%減	達成		
D105	公用車使用燃料H20比較 1%減	未達成		
D106	水道使用量H20年度 現状維持	未達成	エコマネジメント部門(B110)	良好
D107	LAS-E関係職員研修年 2回以上	達成		
D108	各課LAS-E取組内容の確認	達成	エコガバナンス部門(C107)	良好
D109	環境ニュース年 3回以上発行	達成		

詳細は別紙に示す。

5. 所見

【全体評価】

平成 21 年度の独自目標について監査した結果、エコアクション部門を「概ね良好」、エコマネジメント部門およびエコガバナンス部門を「良好」と評価しました。

エコアクション部門では 6 項目中 4 項目で目標未達成でしたが、各項目ごとに部署別の数値が把握されており、平成 21 年度に発生した業務による影響が大きいと認められます。また L A S－E 取組前の平成 16 年度以降の経年変化を見ると、今回未達成だった項目も数年前に比べ削減されています。職員の取組が維持されていると判断し「概ね良好」と評価しました。

エコマネジメント部門、エコガバナンス部門については三つの目標いずれも達成されており良好な結果です。

平成 17 年度の運用開始以来 5 年目となり、取組が定着する一方、省エネ行動だけではこれ以上の削減が難しい状況に見えます。ハード面での対策の検討や、従来とは違う視点での新たな目標設定など、一歩踏み込んだ姿勢が望まれます。

【個別事項】

温室効果ガス排出量は目標の 1 %削減に対し、4.5 %増加しました。主な要因は A 重油、ガソリン、軽油で、悪天候による暖房使用増や、同じく悪天候による農作物被害調査の出動などがありました。

ノーマイカーデーは目標の実施率 50 %に対し実績 57 %と良好な結果でした。しかし昨年指摘されていた部署間のばらつきが大きい状況は今回も同様でした。他の省エネ・省資源の行動が定着していることに比べ、取組を強化する余地が残っていると考えられます。公用車燃料は、上に述べた農作物被害調査等の出動回数の増加によって、2 %の使用増になりましたが、各課ごとの車両管理が行われているため無駄な部分もあると思われます。より効率的な運用が望まれます。

電気使用量は基準年度に比べ 0.5 %減でしたが目標の 1 %削減に届きませんでした。安全対策の設備増などがあり、職員の取組は引き続き維持されていると判断します。

いくつかの施設では、平成 22 年度から新たに太陽光発電パネルが設置される予定です。ただし従来の電気使用量だけの把握では、太陽光発電分を用いた使用量も合算されるため効果が目に見えないという問題があります。集計方法を工夫することにより、目標達成状況と合わせて施策の効果も数値で見られると、さらに有意義な独自目標監査になると思われます。

